



食のまぶづくり運動

行動目標 1 食料自給率の向上

行動目標 2 日本の農業を元気に

年に一度は、生産者との交流や生産を支援する取り組みに参加しよう

行動目標 3 持続可能な社会に向けて

2025年度から始まった「産直未来創造推進」。一体、どんなことをする部署なのでしょう
か？担当役員にMOGMOG編集委員の2人が直撃インタビューしました！

Q. まず林執行役員について伺います。
今までの仕事で印象に残っていることを1つ
教えてください。

商品部で果物の担当をしていた時に、りんご農
家さんから「うちの年収はお前がどう売るかにか
かっている」と言われ、口は悪いながらも熱いも
のを感じました。その方からは「高校生の
息子が後を継ぐかどうかもお前にかかっている」とも言われたので
すが、後日、息子さんが後を継いでくれたこと
を聞き、うれしく思いましたし、印象にも残っ
ています。



執行役員 林 秀明さん



Q. お休みの日の過ごし方は？
ライフワークとして、月に一度は近くの高尾山に
登ることを目標(笑)にしています。「道の駅」めぐ
りも大好きです。

Q. 「産直未来創造推進担当」が、今、なぜ必要
なのですか？

産地の課題として、担い手不足や高齢化、生産
資材の高騰、猛暑・豪雨などによる生産の不安
定化などがあります。こうした課題は、産地の努
力だけでは解決できず、東都生協が生産者と一
緒に取り組んでいく必要
があると判断したからで
す。持続可能な「産地
直結」を実現するために、
これからの産地とのつな
がり強化する対策をこ
の部署で打ち出していき
ます。



神原編集委員



「産直未来創造推進担当」の 林執行役員に突撃！ インタビュー



Q. それでは、これからどんなことを計画
していますか？
交流が止まったコロナ禍の3年で、組
合員と産地との心の距離が遠くなってしま
ったと感じています。東都生協とつなが
っている意義や良さを産地に実感してもら
えるような活動、生産者支援になる援農
やお手伝いなどの交流を職員と組合員
で行い、関係人口を増やしていこうと考
えています。「にんじん」や「東都納豆
用大豆」の収穫お手伝い企画や、産直
に関するワークショップなどの検討を進
めています。



Q. 「産地直結」のために、私たち組合
員ができることは何でしょうか？

産地の現状を理解して、価格に左右され
ずに利用を続けていただくことです。組
合員の「食べる約束」が、産地にとっ
ては「安心して作る」ことにつながり
ます。続けて利用することで、産地
との信頼関係を築くことができます。
そのためにも「登録利用」をお勧め
していきます。

Q. 組合員に向けてメッセージ
をお願いします。

「持続可能な産直」が続くよう
に、お互いがそのかけがえ
のないパートナーになるた
めの架け橋として取り組みま
す。今年、いろいろな交流の仕
掛けを試み、チャレンジ
する年にします。

「生産者カードを書く」「産地
に行ってお手伝いをする」「
オンラインでつながって交流」
など皆さんができること
からぜひやってみてください。

熱い決意表明をいただけたと思います。本
日はありがとうございました。



川名編集委員

産地直結ひとすじ。いちばん頼れる生協に。

共同購入事業部 組合員活動推進グループ

☎03(5374)4756 月曜～金曜日：午前9時～午後4時

E-mail: kumikatsu@tohto.coop

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸5-4-42 さんぼんすぎセンター2階

お問い合わせ

東都生活協同組合
CO-OP

今月の
つばやき

毎号クイズの答えと一緒に届くお便り。「字が大きくなって読みやす
くなった」「内容が濃くて隅々まで読んでいます」などなど... 締め切
りに追われながらも原稿作りの喜びを感じています。編集委員は皆さん
からいただく声を励みに、今日も締め切りを気にしながらカシャカ
シャとパソコンのキーをたたいているのでした。(Y.K)